

平成 31 年度（令和元年度）学校経営計画

1 学校教育目標

豊かな教養と深い技術を身につけ、自ら学び、自ら考える力を備えた、心身ともに健康で社会の変化に対応できる人間性豊かな工業人を育成する。

2 学校の特徴

(1) ものづくりの心を育む教育活動

本県における「ものづくりの中核校」として、創造的なものづくり活動や資格取得、各種コンテストへの参加など積極的に取り組むとともに、地域産業との連携などを通して、21世紀の産業界をリードするスペシャリストを育成している。

(2) 地域社会に根付いた学校教育

2学年全員が参加するインターンシップ体験や各学科の関連する企業への工場見学を推進する他、五福児童館祭りなど各種地域イベントへの参加や小学生ものづくり教室の指導など、地域社会との積極的な関わりを通してキャリア発達を促し、高い職業観、勤労観を身に付けた工業技術者を育成している。

(3) 活気あふれる特別活動

生徒会活動や学校行事、部活動などに積極的に取り組ませることで、自らの能力を十分に発揮させ、個性あふれる、協調性を備えた人物を育成している。

3 学校の現状と課題

〔現状〕

- ・ 学年8クラスの大規模校になって競争意識が強まり、互いに切磋琢磨しようとする雰囲気をもっている。
- ・ 各学科では、学習意欲の高揚や将来の職業選択に向け、検定の合格や資格取得を目指して熱心に取り組んでいる。
- ・ 大多数の生徒が部活動に加入しており、ロボットなどの「ものづくり」や文化活動、運動競技に積極的に取り組み、全国大会入賞など、大きな成果を上げている。
- ・ ここ数年、就職希望者の割合は7割でそのほとんどが地元企業に勤務しており、離職率も低い。また、その他の生徒は各自の専門性をさらに高めるため、国公立大学をはじめ、主に工業系の各種学校に進学しているが、自らの可能性を試そうと、在学中と異なる分野にチャレンジする者もいる。

〔課題〕

- ・ 「県内産業界のニーズに対応する人材育成」を最重要課題と位置づけ、その実現に向けて、さらなる研究実践を進める必要がある。
- ・ 生徒には技術・技能ばかりでなく、人間関係形成力やコミュニケーション力、自主性や協調性が期待されている。
- ・ 日々進歩する工業技術の進化に対応し、現場に必要な即戦力を身に付けさせる為に、専門教科指導法の改善や、新教材の開発が求められている。
- ・ 異なる学習歴などにより生徒間の学力差が拡大しており、「学び直し」を行うなど、工業高校生として必要な基礎学力の定着を図る必要がある。
- ・ このためにも、研究体制の構築と教員の意識向上が必要である。各教科が独自で動くのではなく、学校全体で連携して動ける体制の構築が必須である。

(様式2)

4-1 学校教育計画(全日制)

項目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 重点1	目標	○ 資格取得への取り組みを通して、学習意欲及び学力の向上を図る。
		計画	○ キャリア教育推進の一環として、従来から工業各学科で取り組んでいる国家資格や各種検定への取り組みを充実させる。 ○ 資格取得やジュニアマイスター制度、とやま高校生ものづくりマイスター認定の啓蒙を行う。 ○ 各種検定や資格取得を目指す学習を継続することで、学習習慣の確立や学習意欲の向上を図る。
2	学校生活 重点2	目標	○ 広い視野で社会を捉え、「自ら考え、善悪を正しく判断し、適切な行動ができる生徒」を育成する。
		計画	○ 全教職員が共通理解のもと、生徒指導についての考え方を確立し、教育のあらゆる場面を通して、その実現に向け取り組む。 ○ 地域や家庭、関係諸機関との連携を密にし、生徒の健全な生活習慣の確立に努める。 ○ 愛校心を育み、生徒が誇れる学校づくりを進める。
3	進路支援 重点3	目標	○ 社会での使命を自覚させ、生徒が自己の能力・適性を見つけ出し、その役割を果たすよう自らの生き方を考え、主体的に進路選択ができるように指導する。
		計画	○ 学年・各教科・各学科と連携し、全教職員が協力して指導にあたることによって、生徒一人一人が希望する進路実現を目指す。 ○ インターンシップや工場見学、応募前職場見学を通して企業について理解し、勤労意欲や社会人としてのマナー等を学ばせる。 ○ 進路希望調査、面談などにより生徒の実態を把握し、講師を招いて講話会を開くなど、進路意識や職業観を養う手だてとする。 ○ 進路説明会や保護者懇談会などの機会を通して本校の進路指導の現況を保護者に知っていただく。 ○ 小論文や自己PRの書き方指導、マナー講座等を通して、将来必要となる知識やマナーを身につけさせる。
4	特別活動 重点4	目標	○ 生徒会が中心となり、代議員会を通して生徒達の意見を基に学校行事等における自主的で活発な活動を推進する。 ○ 生徒会活動や部活動を通し、自主的自律的な生活態度を養うとともに、成就感や達成感を体験させる。
		計画	○ 生徒会とホームルームの連携を強め、アンケート調査をもとに学校行事の内容や実施方法について代議員会等で、十分に検討し生徒の参加意欲の向上や活性化を図る。 ○ 全員部活動加入を通して、生徒一人一人が成就感や達成感を味わえるよう個々に目を向けた活動を心掛ける。また、部の運営や部室の使用、活動場所の環境整備等について自主的に改善されるよう啓発する。

5	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事について、全体計画を立案し円滑な学校運営を行う。 ○ 生徒の安全意識を高め、自主的に健康を管理するスキルを育成する。 ○ 生徒が心身ともに健康に活動できるように教育相談を行う。 ○ 日頃読書に親しむ機会の少ない生徒に、図書館の活用を指導するとともに、活字に触れる機会を増やす。併せて、教科指導における予習および復習の場の提供ならびに自主的学習活動の促進を図る。 ○ 生徒の情報活用能力やプレゼンテーション能力を高めるため、各種資格検定のための学習環境や、情報関連機器の利用環境を整える。また、教員の校務事務の円滑化を推進する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各分掌と連絡を密にし、円滑な学校行事の遂行に努める。 ○ 安全に対する啓蒙を図るとともに、各部署と連絡を密にする。ケガの処置時に個別指導を充実させる。 ○ 教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係を育て、生徒が悩みや問題を自らの力で解決できるよう助言し、心身共に健康な人間を形成するための支援を行う。 ○ 生徒の興味を引き、創造性を高める図書を選定する。また、読書習慣が身に付くように、ホームルームの年間指導計画に「読書会」を設ける。 ○ 授業での情報室の利用や、課題研究発表会などでのプレゼンテーション能力を養うための情報関連機器及び視聴覚機器の利用など、効果的な情報教育を積極的に支援する。

4-2 学校教育計画(定時制)

項目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 重点1	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々の生徒の学力に応じた指導を各教科間で連携を図りながら模索し、学習意欲を喚起する授業を展開し、基礎学力の向上を目指す。 ○ 工業に関する科目において、実技を中心とした授業を展開することで、ものづくりの精神に根ざした自己実現を目指す教育を推進する。 ○ 課題解決力の醸成を計るとともに、安全作業をよりどころとして、工業に関する基本技能の習得および基礎知識の理解を目指した授業を展開し、自己達成感が実感できる教育を推進する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒個々の学力向上及び進路意識の醸成を目的に工業高校の特色を生かしつつ、普通教科と専門教科の調和がとれた教育課程を編成する。 ○ 各種検定試験に合格できる力の養成を目指した個別指導や継続的な補習を計画する。 ○ 生徒個々の学力に応じた指導の工夫を計るとともに落ち着いて授業に参加できる環境を整備する。 ○ 生徒自身が製作した作品や授業で学習した内容について発表する機会を設定する。

2	学校生活 重点2	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主自立の精神の醸成に努め、社会人として必要な規則やマナーを遵守する態度の育成と規律ある基本的生活習慣の確立を目指す。 ○ 健康と命の大切さを認識させ、自らの健康管理と事故防止に努める能力と態度を育成する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者と緊密に連携し、職員全体で生徒の生活指導にあたる。 ○ 交通安全に関する行事や指導を定期的実施し、交通マナー向上や交通規則遵守を図り、事故防止に努める。 ○ 健康診断や健康相談を通して、自らの身体の状態を把握させる。 ○ 保健指導や食事指導を通して、適切な行動選択ができるように促す。 ○ 「保健だより」や「給食だより」の発行を通して、健康で安全な生活や正しい食生活に対する意識を高める。
3	進路支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの生徒が「働きながら学ぶ」という定時制の実態をふまえ、生徒の望ましい職業観や職業意識、主体的な職業の選択能力を高めるよう指導・支援する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路に関する情報収集に努め、職業安定所など関係機関との連携を密にして、生徒に対する進路指導の充実を図る。 ○ 学級担任・進路指導担当者と保護者との連携を密にするとともに、面接指導等を充実させ、生徒個々に適した進路指導に努める。
4	特別活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別活動を通して日々の生活を有意義に過ごすための動機付けを行う。 ○ 日頃読書に親しむ機会が少ない生徒に図書館の活用を指導し、併せて職場の仕事に必要な自主的学習活動の促進を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会（執行部・委員会・ホームルーム）の自主的な活動を促し、自主活動醸成の場とする。 ○ 特別活動の活性化を図り、部活動や生徒会行事に対して意欲的に参加する生徒の増加を目指す。 ○ 図書および視聴覚の充実と利用の促進を図る。 ○ 生徒の興味を引き、創造性を高める図書を選定する。 ○ 読書の習慣が身につくように、年間計画に読書会及び読書感想文コンクールを設ける。
5	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育目標達成のため、定時制特質及び生徒の実態をふまえて、全職員の共通理解のもと円滑な校務運営に努める。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員間の情報共有と共通理解を大切にし、個々の課題に対して主務を中心に全職員で対応する。 ○ 部、科、学年間の連携と調整を図り、効果的な校務運営をすすめる。

(様式3)

5-1 今年度の重点課題(全日制)

平成31年度(令和元年度) 富山工業高校アクションプラン -1-	
重点項目	学習指導の充実
重点課題	各種資格取得の推進と学習意欲及び学力の向上
現状	<ul style="list-style-type: none">○ 各学科では、専門分野に関する検定合格や資格取得に向けた補習を行っている。○ 平成30年度は延べ1,699人が各種検定や資格試験に合格している。一人平均の資格取得数は1.79となる。
達成目標	一人当たりの検定合格または資格取得数 一人平均 1.82
方策	<ul style="list-style-type: none">○ 生徒に資格検定の重要性を理解させるとともに、その実施時期等の年間計画を作成、提示することで、生徒の資格取得への意識を高める。とりわけ、学科の特性、進路等から、生徒にぜひ取得してもらいたい資格検定を学科、学年別に明示する。○ タブレットなどのICT機器の活用や普通教科との連携など、指導方法を工夫・改善する。○ 外部専門技術者の招聘等を行い、技術力を高め、合格率の向上を図る。○ 朝学習などの時間の有効活用により学習時間の確保を図る。○ ジュニアマイスター制度及びとやま高校生ものづくりマイスター認定制度の周知徹底を図るとともに、ものづくりを学ぶ意欲を高める。

平成31年度(令和元年度) 富山工業高校アクションプラン -2-	
重点項目	生徒指導の充実
重点課題	規範意識の醸成と主体性の育成
現状	<ul style="list-style-type: none">○ 自転車の不用意な運転で交通事故に遭ったり、校内でのスマートフォン等の安易な使用で指導を受けたりする生徒が後を絶たない。生徒が交通事故やネット社会の危険性を十分理解し、危険を回避する適切な行動を身につける必要がある。○ 挨拶、身だしなみ等、多くの生徒は基本的な生活習慣が定着している。毎年の傾向として、1年生の遅刻・欠席、自転車事故が多い。また、進路内定後の3年生の遅刻・欠席が多くなる。 常に高校生としての自覚を持たせ、地域社会においても規範意識を持って日常生活を送ることができる生徒を育てたい。そして、各生徒が主体的に諸活動に取り組み、互いに誇れる生徒・誇れる学校づくりを推し進め、愛校心を育む。
達成目標	自転車事故件数、遅刻回数の低減 ・自転車事故:25件以内(自転車事故を容認するものではないが、近年の自転車事故発生状況には対策が必要である) ・不用意な遅刻:0.18回/(人・年)以内

方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校風委員を中心として、自転車乗車マナーの呼びかけ、駐輪場整備、安全意識の高揚を図る。 ○ 自転車事故を分析し、原因・対策を周知することで、生徒が危険予知を行う習慣を身につける。 ○ 遅刻指導を随時行う。遅刻の多い生徒を対象にした遅刻反省会を毎学期末に実施する。 ○ 保護者や地域の方と協議する場で、現状の問題点を共有し、多方面からの指導を実践する。 ○ 伝統に誇りを持たせ、よりよい富山工業高校を築いていく自覚を持たせる。
----	---

平成31年度（令和元年度） 富山工業高校アクションプラン -3-	
重点項目	進路指導の充実
重点課題	生徒の希望に対応した進路決定
現状	○ 自らの進路選択を主体的に取り組むことが苦手であったり、自己肯定感の希薄な生徒が少なくない。生徒一人一人に対するきめ細かな指導・援助を一層充実させ、生徒自らが進路を選択できるように段階に合わせて指導すると共に、その進路先に適応し、自己実現を図っていく上で必要な諸能力(基礎学力、計画性、判断力、適応力など)の向上に努めることが重要である。
達成目標	3学年における就職希望の達成度(一次推薦応募先の合格率) 95%
方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業訪問や情報収集を積極的に行い、生徒の就職先の確保に努める。 ○ インターンシップや応募前職場見学等を通して、生徒自らが企業についての情報を収集し、その上で就職先を決定させる。 ○ 進路面談室の利用しやすい環境を整え、受験報告書や企業に関する資料閲覧、就職相談等に対応する。 ○ 面接指導や応募書類作成など、全教職員の協力を得て、きめ細かい指導を行う。

平成31年度（令和元年度） 富山工業高校アクションプラン -4-					
重点項目	特別活動の活性化(生徒会活動と学校行事)				
重点課題	生徒会・代議員会を中心とした、学校行事に向けた積極的な取組				
現状	○ 体育大会、球技大会、富工展などの学校行事に対する生徒の意識は高く、協力的に行事を推進することができる。これまでの行事では生徒会や教師が中心的な役割を果たしてきたが、代議員会等を活用して生徒達の意見を積極的に取り入れ、生徒達の自主的な計画・立案・運営・活性化を推進し学校行事を盛りあげる。				
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会を中心として、生徒が積極的に企画し各学校行事と組み合わせながら、全校生徒が意欲的に参加し、気運を高めることを目指す。 * 事前事後のアンケート調査における、全校生徒に対する百分率とする。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">運営・企画に積極的な参加意識度</td> <td style="text-align: right;">75%以上</td> </tr> <tr> <td>学校行事対しての満足した割合</td> <td style="text-align: right;">85%以上</td> </tr> </table>	運営・企画に積極的な参加意識度	75%以上	学校行事対しての満足した割合	85%以上
運営・企画に積極的な参加意識度	75%以上				
学校行事対しての満足した割合	85%以上				

方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会や運営委員会、代議員会を中心に体育大会、球技大会に関する企画・運営をおこなう。 ○ 学校行事に向けて、全校生徒の一体感が感じられる取り組みを生徒会が中心となり提案し実行に移す。
----	--

5-2 今年度の重点課題（定時制）

平成31年度（令和元年度） 富山工業高等学校アクションプラン -1-	
重点項目	学習活動
重点課題	資格取得を活用した学習指導
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定時制に入学する生徒の多くは、卒業後、本校で学んだ専門的な知識や技能を活かせる仕事に携わりたいと考えている。しかし、入学以前の学習のつまづき起因すると思われる基礎学力の不足が影響し、授業中は内容を理解することに困難を生じる場面があり、学習態度も受動的である。そこで、本校では以前より学校設定科目「生活」で学び直しの意味も含め、高校生として求められる漢字や文章読解力、計算能力や物事を論理的に考える力、および社会生活を営むうえで必要と考えられる一般教養について指導している。加えて、工業科の専門的な知識や技術に関して、その基礎から応用までを効率的に学ばせる方策として資格取得を活用している。
達成目標	<p style="text-align: center;">全工協会主催の資格や国家資格に1つ以上合格する生徒の割合</p> <p style="text-align: center;">55% 以上 (H30年度実績: 53.8%)</p>
方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種検定の内容と各学科の専門教科目の内容を関連づけて指導を行うなど、生徒に継続的に達成感や成就感を実感できる指導法を模索する。 ○ 生徒が受検希望する検定に対して、合格に必要な知識の理解と定着のための補習等を各生徒に実状に応じ、かつ、各学科の実情に合わせた指導を実践する。 ○ 個々の生徒の学力に応じた目標を設定させ、自己学習を充実させる。 ○ 学校設定科目「生活技能」を活用し、基礎学力を礎にした工業の専門的な知識や技能に関する学習機会を増やす。

平成31年度（令和元年度） 富山工業高等学校アクションプラン -2-	
重点項目	学校生活
重点課題	基本的な生活習慣の確立
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭生活や生育歴、学校生活や社会生活状況において様々な問題点を抱えている生徒が多く、生活設計が困難になったり、適応性の問題から規則やマナーを遵守する態度に欠けたりする場合もある。また、減少傾向にはあるが授業遅刻や早退もみられる。 ○ 最近では、自分の将来を考え、毎日登校する習慣を大切にし、年間を通して無欠席できちんとした高校生活をする姿も見られる。昨年は28%に下降したが、過去に比べ、割合も向上してきた。このように目標と向上心を持って、基本的な生活習慣を確立し、自主・自律性を育む生徒が増えることは、生徒同士の相互作用により出席状況の改善のみならず学校生活の充実に繋がると考える。

達成目標	年間の皆勤・精勤生徒の割合
	<p>50% 以上(15人中8人)</p> <p>(26年度:26%、27年度:50%、平成28年度:50%、29年度:28%、30年度:46%)</p> <p>*皆勤 = 1カ年の欠席が0日 *精勤 = 1カ年の欠席が3日以内 (皆勤・精勤においては欠課時数4で欠席1日として換算する)</p>
方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常での生徒とのコミュニケーションを大切にする。 ○ 生活状況の確認に努め、生活リズムを確立させる。 ○ 授業遅刻や早退がないよう声かけ指導、校内巡視等の充実を図る。 ○ 将来を見据えた進路指導の充実を図り、日常生活の見直しを行う。 ○ 健康管理の個別指導を行い、疾病の予防・体調管理を行う。 ○ 保護者と緊密な連絡体制をとり、生徒の状況により、早期に対策を施す。 ○ 年度末に表彰する皆勤賞・精勤賞を生徒の励みにさせ、日々の生活支援を行う。